アジア大会の
金メダルをめざして

近藤　金博

ロサンゼルス・オリンピックのあとソウル・オリンピック出場と６位入賞、アジア大会では金メダル獲得という大目標をたてて、男子ナショナルは監督・野田、コーチ・津川、佐藤でスタートをした。しかし、昨年の大同問題のアクシデントで野田監督が直接指導から離れていたが、津川、佐藤がアジア大会、オリンピックまでの長期強化計画を着々と進めており、効果をあげて来た。

今年４月より、多くのファンの支持と関係者の協力により、野田監督の復帰でナショナル・チーム全体がより明るく活気が出て来ました。

61年度ナショナル・メンバーも決定した。このメンバーは国内最強であるが、世界のトップ・レベルにはもっともっと血のにじみ出る強化訓練を重ねることが必要である。

ナショナル・チームの目標（1.アジア大会での金メダル獲得、2.ソウル・オリンピックへの出場と６位入賞）を全員に再確認し、意識を高め、選手には①各自に攻守にわたる技術理論の徹底と集中力の鍛練、②防御に対する多システムの確立、③攻撃システムの研究開発、④攻守技術のスピードとパワーのアップ、⑤攻守ポジション別スペシャリストの養成、⑥闘争心の向上、⑦日本を代表する選手としての自覚と責任の遂行を目標として強化合宿を行なう。

○強化合宿（国内）

第一次強化合宿（４月21日～28日・大同特殊鋼）

・第二次強化合宿（５月19日～24日・大同特殊鋼）

・第三次強化合宿（６月24日～29日・本田技研鈴鹿、６月29日～７月４日・大同特殊鋼）

○海外遠征合宿

・７月13日～８月13日、ユーゴスラビア各地

ユーゴスラビアに於いては、前半は各ポジションの役割を巾広く技術の修得とレベルアップを目的とし、後半はコンビプレーと戦術、戦略を主に各地を転戦し、８試合～10試合を経験することになっている。ユーゴ滞在中はロス五輪優勝チームを作った監督、コーチから指導を受けており、個人的な指導とチームとしてのコンビプレーのレベルアップは大きな効果をあげて来るであろう。

アジア大会直前には、気候などがソウルに類似していることから第四次強化合宿を９月５日～12日、北海道北見市に於いて最終調整を行ない本大会に臨むことになっている。

アジア大会の強敵国は、長身、体力を持ちヨーロッパ・スタイルの技術を着実に取り入れ、近年めきめきと力をつけて来た中国、バネのある脚力を使いコート狭しと走りまくり、強力な攻撃力を持ちソウル・オリンピックで盛りあがる韓国であるが、選手全員の総力戦で両国に勝って金メダルを獲得すべく頑張っていますので、皆さまのご声援を是非お願い致します。

※選手への〝激励のことば〟を受付けます。どんなことでも結構です。あなたの激励のことばが選手にとって大きな〝力〟となることでしょう。

激励のことばの送り先

〒150　東京都渋谷区神南１―１―１
岸記念体育会館
日本ハンドボール協会　強化部

アジア大会
代表選手団


支援役員　佐藤粟二（本田技研鈴鹿）
〈1949.10.16生〉


コーチ　津川　昭（湧永製薬）
〈1951.8.3生〉


監督　野田　清（大同特殊鋼）
〈1946.4.5生〉


ＧＫ⑯　矢内　浩（大崎電気）
〈1960.8.1生，189cm，85kg〉


ＧＫ⑫　大畑孝広（本田技研鈴鹿）
〈1959.1.9生，184cm，78kg〉


ＧＫ①　井藤英忠（湧永製薬）
〈1959.3.10生，185cm，83kg〉


ＦＰ④　玉村健次（湧永製薬）
〈1961.1.16生，182cm，77kg〉


ＦＰ③　志賀良弘（湧永製薬）
〈1956.4.4生，188cm，95kg〉


ＦＰ②　西山　清（日新製鋼）
〈1959.4.8生，182cm，78kg〉


ＦＰ⑦　内藤浩樹（大同特殊鋼）
〈1962. 8. 8生，176cm，77kg〉


ＦＰ⑥　首藤信一（大崎電気）
〈1965. 1. 10生，186cm，85kg〉


ＦＰ⑤　朝生和光（山梨県職員）
〈1962. 6. 21生，174cm，70kg〉


ＦＰ⑩　田口　隆（本田技研鈴鹿）
〈1961. 7. 23生，182cm，78kg〉


ＦＰ⑨　立木浩二（本田技研鈴鹿）
〈1960. 4. 28生，184cm，76kg〉


ＦＰ⑧　高村誠一（大同特殊鋼）
〈1960. 12. 11生，187cm，80kg〉


ＦＰ⑭　市川　修（大同特殊鋼）
〈1960. 3. 25生，177cm，73kg〉


ＦＰ⑬　奥田新治（湧永製薬）
〈1959. 6. 11生，184cm，72kg〉


ＦＰ⑪　宮下和広（大崎電気）
〈1961. 8. 31生，187cm，85kg〉


ＦＰ⑮　藤井　泉（本田技研鈴鹿）
〈1959. 6. 26生，181cm，74kg〉

全日本女子 グッドウィル大会参加報告

7月10日～20日／モスクワ

日本チームの戦績

▼第1戦

日　本31（14－11、17－10）21アメリカ

［得点］野嶋9点、池上5点、武藤、岩村、小池、山岸各3点、寺沢、井沢各2点、前田1点。

▼第2戦

ハンガリー21（9－5、12－11）16日　本

［得点］野嶋7点、小池6点、岩村、近藤、井沢各1点。

▼第3戦

ソ　連40（20－8、20－10）18日　本

［得点］野嶋6点、小池5点、武藤4点、前田2点、岩村1点。

▼第4戦

西ドイツ19（10－6、9－9）15日　本

［得点］小池、野嶋各5点、山岸3点、岩村、前田各1点。

▼第5戦

デンマーク25（15－13、10－6）19日　本

［得点］小池6点、前田3点、武藤、井沢、野嶋各2点、岩村、寺沢、近藤、山岸各1点。

［総合順位］

①ソ　連（5勝）
②西ドイツ（4勝1敗）
③ハンガリー（3勝2敗）
④デンマーク（2勝3敗）
⑤日　本（1勝4敗）
⑥アメリカ（5敗）

参加選手団の感想文

監督・井薫

グッドウィル大会に参加して

当初、アメリカとソ連の2ヶ国だけの、ベストプレイヤーの競技会の企画であった「グッドウィル大会」は、結局、約50ヶ国が参加する大規模な国際スポーツ大会となり、記念すべき第1回大会がモスクワで盛大に行なわれました。

ハンドボールの女子は、ソ連アメリカをはじめ日本など6ヶ国が出場、日本は緒戦のアメリカに31対21と大勝しましたが、残る4試合に敗れ5位に終りました。

最大の敗因は得点力の低下で、ハンガリー戦16対21、西独戦15対19、デンマーク戦19対25で、この3試合に、2月の欧州遠征時の攻撃力をもってあたれば、今回のGKを含めた防御の健闘を考えるとき、互角以上に戦える内容であり、残念です。

日本チームの得点内容は、従来、速攻と鋭いカットイン、サイドシュートなどの小技の切れ味が主なもので、いつも大砲不在を嘆いていましたが、皮肉にも今回は、小池、野嶋を中心としたアタッカーは各試合とも一応の合格点であったのに比べて、他の部門が不発で、いきおい、アタッカーへの依存度が高くなり、個人プレーが多くなりました。コンビネーションアタックがうまく出なかった理由のひとつに、日本リーグ前期終了直後のチーム編成で、各プレイヤーが所属チームのカラーを出しすぎる傾向が多く、ピックアップチームのまとめ方に、一考を要すると思います。

多彩な攻撃手法が相乗効果としてプラスアルファの得点につながる訳で、チーム、プレイヤーともに、いつでも、どこでも実力が発揮出来るように、もっと心身と技術を磨かねばならないと思いました。

初夏のモスクワは、夜は11時頃まで薄明るく、朝は3時頃には夜が明けてくる白夜の季節で、睡眠には不都合でしたが、女子バレーの日本対アメリカを応援に行ったり、競技終了後、ボリショイサーカスの妙技に酔ったりで、暗くならない夜を楽しむひとときもありました。

国際スポーツ記者連盟の会長は、「疑いもなく、グッドウィル大会はオリンピックの代替大会ではなく、オリンピック運動が信奉する平和と諸国民の友好の理想を発展、強化させせながら、それを補う大会になる」と明言し、ソ連でも「われわれソ連の選手やスポーツ・ファンも、この大会が純粋なスポーツ・イベントの枠を出て国際気候の温暖化を助成するだろう」の意見もあり、前回オリンピックの2年後で、次回オリンピックの2年前、だからこれは間違いなく世界的規模の、一大総合競技会になろう、とする大方の予想どおり、4年後の第2回大会はさらに充実した大会になると思います。

コーチ・樫塚　正一

グッドウィル・ゲームス

世界スポーツの競技会を開催することに多くの問題が関連して優秀な選手が思う競技大会に参加することが出来ず片寄った集まりの中で大会が行なわれている。可能な限り選手が自由に競技に参加出来るように配慮すべきであるとの考えが主体となり、ソ連とアメリカの選手を中心に第1回目のグットウィルゲームスが開かれた。

20種目の競技団体が技を競い、ハンドボールも男子6、女子6ヶ国が参加して競技が行なわれた。女子はソ連を代表としてハンガリー、デンマーク、西ドイツ、アメリカ、日本の参加であり、ハンドボールの大会にはめずらしく資本

主義国の方が多く参加した。大会の競技成績は5位に終り、5位の成績は選手もスタッフも満足できるものではなく、今回もまた国際大会での力の発揮するむつかしさを思い知らされた。チームや選手が力を発揮するためには、多くの条件を満たさなければならないが、日本リーグを終えて、充分な準備期間ももたず大会に出発したことは、選手にとって満足の行く状態で試合が出来なかったであろうと考える。準備が整わなければ勝つことが出来ない弱い部分が表われたが、勝機は充分にあり、また勝つべき試合のデンマークと西ドイツの試合を自らのミスによって落としたのは残念でならない。



第2戦のハンガリー戦を前にしてのあいさつ

試合内容で、今大会に特に速攻が成功せず、速攻が得点源と考えられなかったことは頭の痛いゲーム運びとなった。前回東ドイツ・ニューブランデンブルグ大会には、短い継ぎによる展開で速攻を成功させ、日本チームの1つの得点源と考えることが出来て、攻撃の型が出来上り、後はショートパスの継ぎの中にロング、パスをどのように組み合せ、相手コートとゴール前に如何にパスの回数を少なく到達することができるかを解決する方法を考えることであった。練習不足の中で試合に臨み、得点が20点を越すことが出来なかった原因は、やはり速攻の力を発揮することができなかった得点のマイナスと考える。

承知のように、速攻とは防御が有利な状態から攻撃に移ることが最大の要因であり、対戦したチームで、ソ連を除けば失点は少なく、防御の分野での課題は少なく、速攻の展開が得点に結びつかないことが大きな課題であった。速攻はゲームの中で多く展開されたが、パスミス、途中でのコートバランスの崩れからパスを継ぐことができない状態、防御に動きを止められてしまう状態からシュートに結びつけられなかった。

世界の速攻展開の傾向として、縦の走りと横のパスを使って行なうものが主流であり、縦の走りの中に多彩なパスを使い分ける。動きについても、大きい身体に俊敏さを加えた動作で、攻撃にも防御の帰陣も早く、日本の選手が小さくよく動くといったイメージはもはや現代の国際大会のハンドボールには通用しなく、すべて同じ条件と考えなければならない。

このような状態の中で、縦攻撃においてパスを送ろうとする時、パスミスやパスカットをされ、チャンスを潰すことが多くある。早さが同じ条件と変わった時大きさのハンディがマイナスとなって表われてくる。現状では、大きさは解決することは出来ず、速攻による日本独自の型を作り、展開の中に折り込む戦法が重要であり、選手も国際大会ではこの戦法が重要であると意識するまで練習を重ねなければならない。

全日本チームは、クロス攻撃の中に縦とフェイントを組み合せる速攻を主体として練習を重ねているが、試合では縦の攻撃が多く、縦の速攻に習れ帰陣の早いヨーロッパチームに思うようにパスを継ぐことが出来なかった。得点として考えなければならない速攻で成功することが少なく、この状態が敗因として上げられる時、速攻を担当するスタッフとして心苦しく反省の中に研究を重ねて力として発揮出来るよう努力しなければならないと痛感しております。

コーチ・水上　一

参加国のディフェンスについて

全日本チームのコーチングスタッフの一員としてグッドウィル大会に参加する機会を得たので、女子参加国のディフェンスについて述べてみたい。

〇ソ連（優勝）

全試合を6—0でィフェンス・システムで通す。サイドを除いた中の4人の平均身長が180cmと非常に高く、また、GKも183cmと長身であるので、ロングシュートを打たせて速攻で得点する割合が高かった。特に、監督夫人でもある40歳のツルチーナ（179cm）のよみは素晴しく、若い他のプレーヤーに的確な指示を与えてチームをまとめていたのが印象的であった。

〇西ドイツ（2位）

3—2—1ディフェンス・システムと6—0ディフェンス・システムを併用していた。長身者の多いソ連に対しては3—2—1ディフェンスで、他の国には6—0ディフェンスで対抗していた。特に6—0ディフェンスにおいて、両45度のディフェンスが積極的にプレスに出てプレッシャーを与えるディフェンスを行ない、相手シューターを徹底して押さえていたのが特徴的であった。

〇ハンガリー（3位）

3—2—1ディフェンス・システムと6—0ディフェンス・システムを併用していた。比較的長身者の少ないチームであり、6—0ディフェンスは対日戦ぐらいで、大部年を3—2—1ディフェンスで通していた。

〇デンマーク（4位）

3—2—1ディフェンス・システムと6—0ディフェンス・システムを併用していた。

〇日本（5位）

6—0ディフェンス・システムと5—1ディフェンス・システムを併用した。5—1ディフェンスは全試合でも数分間で、大部分を6—0ディフェンスで通した。6—0ディフェンスでも、相手が長身者であるので、プレス気味のディフェンスを行なった。

〇アメリカ（6位）

6—0ディフェンス・システムのみであった。

以上が各国のディフェンス・システムであった。今年の男子の世界選手権では、大部分の国が3—2—1のディフェンスであったので、女子にもその影響があるかどうか、大変興味深く観察した。

ソ連は長身者も多く、伝統的に6—0ディフェンスに強い国であるので、当然の戦術であろうが、他の国々ではやはり3—2—1ディフェンスが積極的にとり入れられていた。男子と異って、まだ動きのスピード、プレスの激しさが足りないような気がしたが、それらはこれからの課題であろう。

前田　重子

グッドウィル大会について

初戦のアメリカ戦を勝った時には、もしかしたら…と甘い考えをおこしてしまい、それがいけなかったのか、次のハンガリー戦、後半の西ドイツ、デンマーク戦と、日本チームの悪さばかりが目立ったゲームになってしまいました。

世界ナンバー1のソ連チームには、胸を借りるつもりで試合したのですが、やはりほとんど相手にされていなかったようです。

ハンガリーには、前のニューブランデンブルグ時のような迫力は感じられず、あまり調子が良くないという事がわかっていたはずだったのですが、自分たちがそこにつけ入る事ができず、自滅してしまいました。

他の西ドイツ、デンマークにも同点、逆転のチャンスが何度もあったにもかかわらず、得点に結びつける事ができず、時間ばかりが過ぎて、余計あせってミスにつながってしまうという、最悪のパターンで負けてしまいました。

あと少しで、という場面で踏ん張る事ができ、自分たちの本来の力を発揮する事ができたら、きっともっと良い成績が残せたと思います。そのあと少しというところの精神力が、今の全日本に不足しているという指摘を受けました。今後まずみんなで、これを克服していかなければならないと痛感しました。

いつもいつも、反省する事ばかりが多い海外遠征ですが、次の機会が与えられたなら、ほんの少しでも満足の方が多くなるように努力するつもりです。

葛生　豊子

GKから見た大会の印象

グッドウィル大会は、ソ連、西ドイツ、ハンガリー、デンマーク、アメリカそして日本と6ヶ国でリーグ戦を行ないました。この大会では、時間的にもたいへん余裕がありましたので、他の試合を見学する事もでき、私たちの試合の参考になると思いましたが、実際に見るとやるとでは大きな違いを感じました。

ソ連は特にゲームをしてみないと実際の強さはわかりません。いくら特徴を覚えていても、シュートのスピードは計れませんでした。セットで得点させるより、速攻でGKからワンパスが通り、ソ連の得点が3分の2である。ロングシュートがノーマークシュートと同じ感じがするくらいでした。し

かし、40点ゲームは私としては残念でした。その他のチームとは粘りのある守りの試合ができたと思います。得点は物足りなさを感じますが、ＧＫからのパスのつなぎが遅い点に問題があったと思い反省しています。日本では通るパスもここではカットです。思いきりのよい、正確なパスのつなぎを身につけたいと思います。

また、日本の失点の原因は相手のポストプレーヤーに得点されてしまった事です。どのチームもポストには大型プレイヤーを起用し、打てば得点もしくは必ずＰＴである。必死に守っても日本が上回るには課題が大きいと思いました。シューターはＧＫが待ちきれず、動いてしまってから楽に打つ耐久力がすぐれているプレーヤーがほとんどで、ずい分悩まされました。

私にとって特に大会で男子の試合を見る事ができ、ＧＫのスケールの大きさ、シュートをキープする時のつめのタイミングの良さを見て、新たにＧＫの魅力を感じました。

山岸　和子

ホテルの生活

モスクワの中心部にある世界最大の近代ホテル「ロシアホテル」に、各国の選手団が宿泊しました。このホテルは12階建てで、1階につき310部屋あり、宿泊人数はだいたい5千人以上となります。1周が約1kmあります。どこを捜してもまずこのホテルのように5千人以上も宿泊できる所はないでしょう。

部屋の中は日本のホテルと変りはありません。テレビ、冷蔵庫があり、バストイレ付ですから…。毎日午後になるとルームサービスがあり、タオルやシーツ、カバーの取り替え、掃除までもしてもらいました。生活面では、そんなに不自由はしませんでした。

部屋の鍵は、各階を管理しているジェジュールナヤから受け取りました。このジェジュールナヤは24時間でした。その他、何部屋置きかに監視員がいました。やはりホテル内で何かよくない事が起きないかどうかを見張っているのだろう。

ホテルの外には警備員と思われる人たちが20人くらいで見回りをしていました。これだけ厳重にされているだけあり、ホテルの出入りも厳重でした。選手、役員一人一人の身分証明のような「ＩＤカード」というものを、いつも身につけていなくてはいけなかったのです。このカードがないとどこへも行けないのです。それだけ重要なものなのです。

選手が問題なく快適に過すことができるよう、ホテル側も万全を尽くしていたのでしょう。

井沢由美子

グッドウィル大会に参加して

全日本に入り、今回2度目の遠征に参加させて頂きました。このグッドウィル大会は今年が第2回目という事で、意義のある大会だったと思います。

アメリカ、ハンガリー、ソ連、西ドイツ、デンマークと5戦したのですが、1勝4敗で、もう一息で勝てる試合もあったのですが、アメリカ戦の1勝だけでした。

私は今回試合に出て、自分の役割の大切さを知りました。左ききである私は、左からの動きを、もっと生かさなければと思いました。外人選手の中にも左ききの人がいましたが、左ききの特長を出していたと思います。中でも印象に残っているのが、アメリカのサム・ジョーンズさんで、左45度からのロングシュートや、視野外からのシュートはすばらしいと思いました。右ききの多い選手の中で左ききの人は、有利だと思いました。

この大会では各チーム一人は左ききがいたと思います。サイドシューターでの左ききでは、確率のよいシューターがいました。自分の持ち味をしっかり出していると思いました。

この遠征で学んだ事を忘れずに、左ききの動きを生かせるようにこれからも頑張っていきたいと思います。そして外人選手を相手にした時、誰にも負けない程の左ききの選手になりたいと思います。

武藤夕起子

赤の広場クレムリンについて

私たちの宿泊したホテルのすぐ近くには、赤の広場やクレムリンなどモスクワを象徴する物が沢山あり散歩するのにはとても最適な所でしたクレムリンは、日本でいうと城砦の意見で市の中心にあり、モスクワ発祥の地となっています。クレムリンの他に歴代皇帝の戴冠式場のウスペンスキー寺院、全市の見張台と信号塔に使用されているイワン大帝の鐘楼、ソ連最高会議が行なわれる大クレムリン宮殿などが20の塔と長さ2・2kmの赤い石造りの壁で作られた三角形の城塞に囲まれていてクレムリンを中心に放射状に道路、鉄道、地下鉄が延びそれを環状の道路、地下鉄でとり囲んだ円形都市を築いています。

その城塞の前には、赤の広場といってモスクワで一番美しい広場があります。赤の広場の中央にはレーニン廟というソ連建国の父レーニンが臨終時に眠っている建物があり、月、金曜日の定休日を抜かして毎日何kmもの行列を作って

います。一度フリータイムの時、通訳の人が1時間も待てば入れますからと言われたのですが、あの行列を見て、また待つ事にあまり慣れていない私たちは並ぶのをやめました。でもソ連の人たちは何の苦もなく並んでいるので、これはやっぱり国民性の違いが出てるなあと感心してしまいました。

また、そのレーニン廟には憲兵さんが立っていて、朝7時に交替の時間があり、それでもまだ少し人だまりができます。だいたい7時3分位前に交替する憲兵さん2人とそれを誘導してくる人1人と合計3人の人が南門から出て来て手足を高々まっすぐ上げて来ます。そして7時の鐘で一瞬のうちに交替し、まるでそれはぜんまいじかけの人形のようです。また、赤の広場の回りには、南端に幻想的で色彩豊かな聖ヴァシリー寺院、北端にある赤レンガの建物、国立歴史博物館正面には国営百貨店グムなどがあり、いつも広場はにぎわっています。また、それらの建物もレーニン廟のようには並びませんが、ほとんど待たないと入れません。これは他の所へ行っても同じで、デパートなどは開店前に行列ができる程です。休日ならまだしも平日でそんな人ごみができるなんてちょっと信じられない光景でした。

今回の遠征は、本当に近くに有名な建物が手に取るよう沢山あるので、また歩いて近くの距離にあるのでたいくつをするという事がなく、いろんな所を回ってみました。

白夜とソ連について

小口　明子

ソ連について驚いた事は、大きな建物が多く、日本のように密集しないで広々と建っているという事です。作りもとても繊細で、感動しました。また、マンガのようなおもしろい建物もあり、とても楽しく見る事ができました。

いつも朝早く起きて町の中を走りましたが、ゴミなどは全然落ちていなく、とてもきれいな町というのが印象に残っています。今思うと、眠いながらも早く起きて走った事が良かったと思っています。

夜になってみると、ビックリした事は、ソ連の夜は白夜で、10時過ぎまで明るいという事です。時間の感覚がなんかずれてしまったようでした。9時頃外を見ていると、犬と散歩している人もいました。夜は外に出なかったので、夜のソ連も歩いてみたかったと思います。

また、一日観光があったのですが、どこに行っても長い行列が見られて、1時間、2時間並ぶのはへっちゃらという感じでした。私たちもその列に入ろうとバスを降りましたが、あまりの列の長さにまいってしまい、やめてしまいました。ソ連の人はのんびりしているなあとつくづく思いました。

それからちょっと残念だったのは、地下鉄に行けなかったという事です。ソ連の地下鉄はとてもきれいで、見る価値があるといわれていましたが、行けなくて本当に残念です。

ソ連に行ってみて、本当に雄大な国だなあと思いました。

遠征をふり返って

磯山　弘美

私は生まれて初めて、共産国の地をおとずれる機会を持った。ソビエト連邦が、モスクワを中心として、他の国々を招待して、「グッドウィル大会」を開催した。私は、その大会に全日本ナショナル選手の一人として、参加できたことをとてもうれしく思います。なお、その大会に参加したことによって、自己プレーの不足している所、世界各国に対する日本ハンドボールのレベル、生活習慣の違いなど、今までにない、貴重な体験をしました。

試合の結果は思わしくなく、1勝4敗でした。私が出場したのは対デンマーク戦だけだったので、ほとんどの試合をスタンドで観戦した。見ている限りでは、自分たちの力を出しきれなく、勝てる試合も負けて終ってしまったような気がしました。

特に、ソ連チームの一つ一つのプレーには、驚いた。もちろん、日本の体格とは全然違って、背も高いし、横にもあるし、パワーは天下一品のものを持っている。しかも、そのような体格を持っていながら、動きが機敏で、ディフェンスが前につめてもシュートが入ってしまう、あのパワーは、日本には、ないと思いました。

私も、この大会で学んだ多くの貴重な体験をもとに、階段を一歩、一歩、しっかりと、歩んでいきたいと思っています。

シューターから見た今大会の印象

小池　宏子

参加チーム6チーム中、5位に終わった今大会を振り返って、得点20点を常に一つの目標としているこのチームで、速攻のミスが多かった事と、セットでの点が取れなかった事が勝ちゲームにもって行けなかった、一つの大きな原因になったと思います。

速攻でのミスは、私の題とは、すこしはずれるので、シュートの反省点をあげてみたいと思います。

ロングシューターがシュートを打ち、決める事により、ディフェンスが前に出て、段差ができ、カ

ットインやブロックプレイなどが効果的になってくるわけですが、さがっているディフェンスに対して、ロングシュートが入らなければ、ディフェンスに前に出る必要性はなく、打たせてとるという、意中のディフェンスができてしまう。

ロングシュートが多く、サイドシュートやポストシュートが少なかったのは、ロングシューターが、ロングとしての役割りを果たしていなかったため、サイドやポストから打てる状況が作れなかったという所に一番大きな原因があると思う。

下がって高い壁を作られた時に、ブラインドを使ったり、コースを打ち分けるなど、まだまだできないので、勉強していきたいと思います。

前回のニューブランデンブルグの大会では、前へつめるディフェンスが、多かったが、今大会はさがって守るという所が多かった。

日本はなるべくディフェンスラインを高くして守るようにしたが、間が広いので、入り込まれたり、押し込まれたりして、強引に力でもっていかれるケースが多くあった。

体格のいい外国人に対して、日本の選手は、背も小さくきゃしゃであるので、力で押し勝つような、強引なプレーはできないので、身体の大きさで負けても、スピードなどでは負けないよう、小さい人のような動きやパワフルなシュートが、打てるような、身体作りや動き作りなども、大切な事だと思いました。

モスクワの休日、ショッピング

寺沢　路子

7月10日から7月20日まで約10日間、ソ連のグッドウィル大会に参加して来ました。グッドウィル大会というのは、規模が大きく、全スポーツの選手が同じホテルに宿泊し、何日かにわたって試合を行なうのです。

ホテルはクレムリンの近くで、窓からは、聖バシリー寺院などが見え、とてもきれいでした。ショッピングなどは、ホテルの隣りに外国人旅行専用のベリョースカがあり、そこは外貨のみ通用し、免税なので市価より安く買う事ができるのです。種類も豊富で、毛皮、キャビア、コハク細工、マトリョーシカなどがありました。

休日には、バスでモスクワ大学（36階建て）赤の広場へ行きレーニン廟の中に入る事ができたのですが、すごい列で2時間は待たないと入れないのです。ソ連の人々は、いつもこうして列を作り、時間をかけてでも入るそうです。赤の広場は、モスクワで最も美しい広場で、ステンカラージンの処刑の地、10月革命など歴史的事件の舞台にもなった所だそうです。

休日とかゆっくりできませんでしたけど、2、3人でクレムリンなど散歩に行き、とてもきれいな街だと思いました。

大会で見たジュニアの選手たち

近藤　育子

7月10日～20日までの10日間という短かい期間でのグッドウィル大会、ハンドボール部門でしたが、オリンピックの次の大会といわれるだけに、規模がすごく大きく、とても盛大でした。

ハンドボールだけの大会かと思っていましたが、陸上、柔道、レスリング、体操、バレーボール、バスケットなどいろいろな競技がモスクワで行なわれ、日本からは、柔道、バレーボール、体操などが出場していました。体操の選手たちは、小学生の子供たちばかりで、「こんなに小さな時からこんな大会に出場できて素晴らしいなあ」と思いました。ハンドボールでも、日本代表となればやはり、実業団や大学生が主となるわけですが、この体操の選手たちは、ハンドボールからしたらジュニアのジュニアぐらいの年齢層になるわけです。「ジュニアの子たちがシニアに上がったら素晴らしい選手になるのではないか」と思っています。



食事の時はみんなくつろいだ表情だ

グッドウィル大会のハンドボールでは、ソ連、西独、ハンガリー、デンマーク、アメリカと日本の6ヵ国で戦いましたが、どこのチームを見ても、必ずジュニア上がりの人がいました。日本のメンバーでも、ほとんどの人がジュニア上がりで、やはり自分も今年度からジュニア上がりのシニアメンバーの一員です。

第4、5回世界選手権大会で見た選手やイタリアのインテラムニ

アカップで見た選手、たくさんジュニアでの大会で見た人がシニアで国家代表として立派に戦っています。名前をあげればきりがないのですが、中でも印象的な選手としては、世界一のソ連でしかもアタッカーというかポイントゲッターとして活躍している背番号8番のナタリー選手です。身長も他の選手に比べとても大きく、太いわりにはなかなか機敏な動きをして、この大会でも毎試合10得点前後は決めていました。日本の試合でも13得点も決められてしまい、堂々たるものでした。

今大会で自分のプレーが通用しなく、とても考えさせられましたが、これを良い機会にこれからの練習方法、目標など考え直し、一つ一つのプレーを正確にしていきたいのです。

岩村　英子

ポストプレーヤーから見た大会の印象

第2回のオリンピックにしようと米、ソが企画した「グッドウィルゲームズ」に私たち全日本女子ハンドボールチームが招待され、7月13～18日の5日間、ソ連、ハンガリー、西ドイツ、デンマーク、アメリカの5ヶ国を相手にゲームを行なってきました。

ポストプレーヤーの私自身から見た対戦相手5チームの動き、また私たち全日本の動きを感じたままにあげてみたいと思います。5チーム全てに共通して言える事は、ロングプレーヤーが絶えずポストへのパスを狙っていたという事です。ただ単にポストプレーヤーがノーマークになるのを待ってパスするのではなく、必ず自らシュートを狙い、DFをひきつけ（もちろんDFが前へつめなければシュートです）、最後まで徹底してロングとポストのコンビ、パスを狙うという事です。そしてポストプレーヤーは、パスが入れば、シュートがPTをこれもまた必ず得点に結びつけ、これは身体が大きいにもかかわらず、ボールを持ってからの動きがとても素早いという事で、キャッチした瞬間にはもうシュート体勢に入っているのです。しかも、それぞれプレーヤーが自分の役割を確実にこなし、私たち日本のDFからいえば、ロングにつめなければ打たれる、ポスト、サイドを守らなければ得点されるという、体格の違いと除いても、やはりパステクニックは当然学ぶべきものがありました。

そして、日本は体格の違う相手に同じような攻撃では通用しないため、ロングプレーヤーに対してのアシストプレーが重要なポイントとなるわけです。正面、縦ブロックや、クロスに入り打たせせたり、その時のカットインなど動かないDFに対し、いかにすき間を作るか、スキをつくかです。それぞれ相手が力でしかけてくるのに対し、私たちはクロス、ブロック、カットインと動きをもって全員が足を使う動きをしなければなりません。体力、気力の充実をもって臨まなければ本当に吹っ飛んでしまうのです。

ポストプレーヤーの私たちにとって、各チームの同じプレーヤーのシュートに入る時の素早い動き、体勢、ロングとの合わせのタイミングなど本当に勉強になりました。この12月の世界選手権へ向け、今大会で感じた事を含め、新たな気持ちで日々の練習に励み、がんばりたいと思います。

池上　由美

グッドウィル大会の印象

政治がらみのボイコットでオリンピックの片肺が現状となっている今、7月4日から20日までモスクワとタリンなどを会場にして開かれたこの大会の第一の印象は、私たちがモスクワに足を踏み入れて初めてわかったその規模の大きさでした。種目18、参加国約50、選手数約3000、これ程の規模の競技会の準備はとても1年や2年でできるものではないというのが通説ですが、実際参加してみて少しも不安はなかったし、運営のスムーズさには大変驚きました。それもこれを政府と社会団体の物質的・精神的支援と、80年オリンピックを成功させた経験に裏付けされているようです。

ハンドボールは、13～18日にかけてモスクワで行なわれました。参加国は男子がソ連、アメリカ、チェコ、ポーランド、アイスランド、女子はソ連、西独、ハンガリー、デンマーク、日本、アメリカで、2つの会場に分かれて男女交互に試合が行なわれていきました。両方の会場ともとてもよく整備されていて、その中でも素晴らしいなあと感じたのが電光掲示板でした。両チームの得点はもちろん、個人別の得点がロシア語と英語で交互に表示され、また退場者が出た時は、その背番号と残りの時間がデジタルで表示されるのを見て、そのスポーツホールが（ソ連という国がかもしれませんが）ハードボールの競技にとても気が配られているようで羨ましく思いました。

街を歩いていてよく目についたのが、警備員のような警察官のような、ただじっと立って監視している制服姿の人たちでした。街のあちこちでも見かけたし、ホテルの中や外は一晩中、また私たちがホテルとスポーツホールを往復するバスの中にも常に2人同乗する光景は、さすがに社会主義国の親分という感じでした。

こんなモスクワの人々も、どの

種目においても優勝争いをしている母国の健闘ぶりに毎日テレビの前に釘づけになっていたようです。看板やネオンがほとんどない街でひときわ"グッドウィルゲームズ・モスクワ'86"の旗が目立っていました。

　商業化の傾向が強いといわれるこの大会ですが、私たちは米国勢とソ連勢の中に入って、それはハンドボールに限らず、世界のトップレベルのゲームを見、実際に世界の壁を肌で感じ、またそういった人々とのコミュニケーションをもう二度と訪れることがないであろうソ連という大国でできたことは、大変な光栄です。名誉ある第1回大会に参加できたことを誇りとし今後の糧にしたいと思います。

野嶋ちえみ

通訳の二人とソ連人

　チェルノブイリ原発事故をはじめ、数々のニュースなどでも暗い印象ばかりをもつソ連（モスクワ）で初のグッドウィル大会が行なわれ、私たちの全日本女子チームが参加。

　日常語として使われているロシア語も、おはよう、ありがとう程度しか話せないまま、不安ばかりでソ連に入国しました。が、そんな私たちに思いがけない二人の"助っ人"が待っていました。

　その二人とは、モスクワ大学で日本語を学んでいたというスラワーさんと、同大学でやはり日本語を学んでいるというユースチャンさんでした。お二人共、日本語がとても達者で、日本のことわざ、歴史に興味をもってられ、この大会中にも、お二人のおしゃべりによるエピソードが沢山ありました。

　一つは、会場に向うバスが道を間違え、練習時間にまにあわないと、皆イライラしている中に、スラワーさん、片手にマイクを持ち登場。『井さん"急いでいる乞食はもらいがすくない"と言いますねー』と一言。さすがの井監督もあっけにとられるありさまで、スタッフ、選手一同、ソ連人の強さを知らされました。

　他にも買い物の件などで、安い店を教えて欲しいと頼むと、またスラワーさん、『"安物買いの銭失い"と言いますよー』と今度は説教されるありさまで、1本とられてばかりでした。

　もう一人のコースチャンさんも、とても歴史に強く、その事を話される時の目はとてもするどく、歴史に対し、私より詳しかった事は言うまでもありません。

　1週間の大会を終え、最後の二人の挨拶の中にも『皆さん、ご静聴ありがとうございました』のしめの上手さには驚きました。

　大会期間中、このお二人がいなかったら、どうなっていただろうと今思います。本当に助かりました。是非、日本にも来ていただき、あのジョークを沢山の方に聞いていただきたいものです。

山内　香代

食事、ホテル、レストランについて

　モスクワ空港から1時間程で、今回滞在したロシアホテルに着きます。ホテルの敷地面積そして規模は広大なものです。5千人もが宿泊できるというホテルは、今大会大半の選手たちが宿泊したのだろうと思います。ホテルには広い中庭があり、各階ごとにフロントがあります。一人一枚ずつ部屋の番号を書いたカードを持ち、それと交換に鍵をもらいます。カードがないと、いつもやさしそうに笑っているフロントの女性たちも一変して「ニエット」と見向きもしません。それでも遠征半ばの頃には、姿をみるとすぐに鍵を渡してくれました。時には、わけの分からぬロシア語で話しかけてきますが、私たちはただニッコリすることしかできませんでした。ホテルの出入口には、時間を限らず警官がいて少し異様な感じですが、慣れてくるとあまり気にもなりません。

　ホテルでの食事は、バイキング形式で、朝は満足ですが、昼、夜となると、量的にも質的にも不足でした。日本食が恋しくなったことが多々ありました。それでも放射能の関係で、食べられないと思っていた野菜や果物を口にできたのは、少し驚きでした。

　遠征の半ばに、モスクワでも有名なロシア料理のレストランに行きました。全く見当がつかないロシア料理というものに、みんなの期待は大きかったようです。席につき、そこにあったものは、塩っ気たっぷりの魚や肉。少し期待はずれで、みんなあまり食はすすまなかったようですが、それだけに、シャンペンの空くのは早いみたいでした。ソ連に限らず、外国に行くと、日本人の私たちが、やはり日本食がいちばんと感じているように、他国、各国の人々も自分の国の料理がいちばんと思いながら食べていたのではないでしょうか。

時實　良枝

ボリショイ・サーカスについて

　最初にサーカスを観に行く事を聞いたけれど、あまり乗り気ではありませんでした。私自身サーカスという物自体に、興味もなかったし、子供に対してのものだと思っていたからです。けれども、実際に行って、観てみると、子供どころか、大人が十分に楽しめるものだと感動しました。各国で、巡業するときはもちろん、テントで、行なわれます。ここでは、ボリショイサーカス専用の会場なので、設備とかもすごかったです。

　オープニングから、驚きでした。それと、バックミュージックも、生のオーケストラの演奏なんです。会場は、満員でした。私たちも、観る日を決めていたのに、チケットが手に入らず、15日が17日になってしまいました。スケボーの演技から始まって、クマが出てきて、いろいろ手伝っていました。とてもかわいかったです。それから、アルミのお皿のようなものでフリスビー。3人が次々に投げるのでキャッチするものや、こん棒、を、1人の人が、全部落とさないそれから、馬乗りもありました。そして、休憩があるんです。アイスクリーム、パン、ジュース、お菓子などが、売っていました。休憩が終って席にもどってると、今まで演技を行っていた所が、円形のテーブルに変っていました。シンクロあざらしなども出てきました。

　サーカスにはやはりピエロの存在は大きいです。ピエロの人は総合的にいろんなものをやりこなさないといけないと思った。体がスゴク柔らかくて、いろいろな演技する人もいた。

　サーカスが終ってからも、感動の余韻が、少しの間残っていました。日本もこういう大人、子供に区別することなく楽しめるものがもっと、あるべきだと思いました。

女子ジュニア　イタリア遠征報告

インテラムニアカップは第7位

女子ジュニア・ナショナルチームは、7月2日から19日まで、第14回インテラムニアカップとホンジ国際に参加のため、イタリアへ遠征を行なった。成績は、10ヶ国が参加したインテラムニアカップでは7位、ホンジ国際は参加5ヶ国中最下位の結果であった。しかし、この遠征で対外国チームとの試合にも次第に慣れ、攻守の面で多くのものを学びとって来ており、ジュニア選手たちの今後の大きな成長を期待したい。

第14回インテラムニアカップ

▼第1戦

日　本31（13―8、18―6）14シリア

○…初戦であり、外国チームと初めての対戦ということもあり、全体的に緊張度合が強く、一人一人のプレーヤーが、表情、動きにも固さが見られた。

ディフェンス面においては、自分のマーク・プレーヤーをはずし、ロング、ミドル・シュートに対する詰めが甘く、また、ディフェンス同士のコンビネーションがかみ合わない。そのため、一対一のフェイントから簡単に抜かれるケースが目立つ。

攻撃面では、単なるパス・フェイントからポストへのパス攻撃だけに終始し、単独速攻、速攻に移る際のパスミスが多く、得点に結びつかない。

初戦、初体験試合といえども、基本的な技術のミスが多く、納得のゆかないゲームであった。

〔得点〕市来6点、大林5点、佐藤、道上、白鳥、新田各3点、太田、中山、武津、鈴木各2点。

▼第2戦

韓　国41（22―11、19―12）23日　本

○…前半互角の展開であったが、残り5分位から速攻による連続失点を許し、前半7点差で終る。

この原因は、パスカット、単発ミドルが韓国の速攻を許す原因。

後半開始早々、単発ロング、パスカットで連続失点が続き、差が一方的に広がる。攻撃の中央寄り、パスワークのスピード、テクニックが不足しており、サイド攻撃が少ない。一対一のディフェンスは簡単に抜かれてしまう。

韓国チームは、個人個人の能力が高く、ディフェンスに変化に対して適応力、変化能力に秀れており、センタースリーのヨーロッパスタイルの中にフェイント力、ロング、カットプレー、サイド攻撃と幅広いセット・オフェンス力を駆使し、そして速攻の展開力に富んでいる。

日本の課題としては、アウトプレーの徹底、パスワークのスピードとパスプレーの変化、フェイント力、ディフェンス変化に対して切り換え動作の速さ、個人のディフェンス力の強化が必要。

〔得点〕新田5点、佐藤、中山各4点、武津、市来各3点、白鳥2点、道上、大林各1点。

▼第3戦

ブルガリア32（14―9、18―7）16日　本

○…〈得点内容〉＝〈日本〉速攻2点、ミドルジャンプ、ステップ5点、サイド4点、フェイントでのカットイン、PT5点。〈ブルガリア〉速攻4点、ミドルジャンプ1点、サイド7点、ポスト4点、フェイントでのカットイン、PT6点。

以上の得点状況で明白な通り、速攻による失点が非常に多く、日本側の単発シュートが失点につながる。

前半はやや互角の闘いであったが、攻撃の単調さが後半相手ディフェンスの餌食となり、速攻を許し、ロングシュートを頼りとするセットオフェンスではなく典型的なセンタースリーのずらし攻撃で、サイドシュートがかなり多い。また、速攻はセンタースリー・ポジションそのままの速攻で、クロスプレーによる速攻は全く見られなかった。

〔順位〕佐藤、坂倉各3点、大林、常石、白鳥各2点、工藤、道上、武津、市来各1点。

▼第4戦

スペイン29（13―7、16―11）18日　本

○…前3戦の反省を同様、ディフェンス一対一の強化とコンビディフェンスの徹底が必要に思う。

スペインは典型的なセンタースリー・オフェンスであるが、一人一人のフェイント力でずらしを誘うのではなく、位置のずらしが多く、パスプレーでのずらしから、特に日本側ディフェンスは高い位置での詰めで臨んだために強引プレーにふり切られ、ポスト、サイドでの得点を許す。

しかし、下げた一線ディフェンスに後半中ばディフェンスを試みたならば、失点が極端に押さえられた。

この反省からディフェンス能力、チーム・ディフェンス能力をいろいろな型で適応させる能力を養う必要があると感じる。

〔得点〕佐藤、市来各4点、坂倉、大林、白鳥各3点、道上1点。

▼第5戦（7・8位決定戦）

日　本33（14―9、19―5）14イタリア

○…対外国戦に慣れて、速い詰めのディフェンスもやや徹底されて、単調なパスワークと個人技量の弱いイタリアに対して効果的なディフェンスを敷くことが出来、インターセプト、シュートブロックが容易であり、攻撃のコンビネーションがかみ合い、多彩な攻撃での得点をあげることが出来た。

〔得点〕市来7点、白鳥6点、中山5点、佐藤、道上各4点、大林3点、武津2点、坂倉、新田各1点。

'86ホンジ国際

▼第1戦

チェコ 23（12－10、11－7）17 日本

○…テラモ大会での体験が徐々に効果を現わし始め、一対一のディフェンス力、タイミング、そして味方同士のフォローが巧くかみ合ってきた。

ただし、チェコ・オフェンスのポスト・プレーヤーが、エリアラインを巧みに位置を変化させ、ポストプレーによる失点が多かった。

得点は、個人のフェイント力、速攻によるところが多かったが、やはり単調なボール回しが多く、パススピード、パステクニックの習練が必要に思う。

［得点］市来5点、大林4点、佐藤、白鳥各3点、道上、新田各1点。

▼第2戦

韓国 35（17－9、18－10）19 日本

○…点差ほどの内容の悪さではなく、やはりキャリアの豊富な韓国が日本を上回った。

前半は、チェコ戦と同様ポストプレーによる失点が多く、速い詰めの効果は現われているが、パステクニックの上回る韓国が巧くポストへのパスをつなぐ。試合の積み重ねによってディフェンス力の強化は計ることが出来るが、セットオフェンスに関して、やはり一朝一夕にコンビネーション、シュート力、フェイント力が養われないだけに、個人の現有する能力に頼るのはいたしかたない。それ故に、攻撃が単調になるのは今回の最大の反省である。

［得点］白鳥6点、佐藤、道上、武津各3点、市来2点、大林、中山各1点。

▼第3戦

中国 34（17－8、17－10）18 日本

○…〈得点内容〉〈日本〉＝ミドルジャンプ、ステップ7点、ポスト3点、カットインプレー、PT3点、速攻2点、サイド2点。〈中国〉＝ミドルジャンプ、ステップ7点、サイド7点、カットインズレー、PT4点、速攻8点、ポスト8点。

集中力を欠いた試合であった。単調なミドルシュートからゲームが開始されたが、中国GKの巧守に阻まれ、サイド攻撃からの連続失点に始まった中国戦は、焦りと攻撃のいらだちからミスを連続させ、中国の多彩な攻撃になすがままにしてしまった。

後半になってもミスが続き、中国の連続のポストプレーを許し、続いて5連続の速攻とたたみかけられ、ゲームの主導権を圧倒的に中国の握るところとなり、多くの問題を残したゲームであった。

［得点］白鳥6点、武津3点、坂倉、大林、太田、新田各2点、市来1点。

▼第4戦

カナダ（ナショナル）30（16－14、14－11）22 日本

○…降雨のため、イタリアナショナルチームとの対戦は出来なかったが、カナダとの対戦後であったならば、恐らくイタリアナショナルチームを破ることが出来たであろうと思うほどの素晴しいゲームであった。

カナダチームは韓国イームを32対30と破り、日本チームにすれば昨日悔いを残した中国戦の反省と韓国チームを破ったカナダチームに善戦したいという意欲が選手全員に乗り移り、ジュニアナショナルとしての一体感が強く感じられたゲーム内容であった。

前半中ば、互いの多彩な攻撃の中で確実にサイドシュート、ノーマークシュートを決めていたならば、前半の点差は逆であったかもしれない。

後半においても、連続失点はしたものの、ゲームを投げることなく果敢に攻め、声を出してディフェンスしたことは、明日のジュニアへの夢を託した。

［得点］佐藤6点、市来、白鳥各5点、坂倉3点、道上、大林、中山各1点。

女子ジュニアイタリア遠征メンバー

監督	藤原　侑	1942. 1. 1	日本体育大学
コーチ	梶岡俊介	1948. 2.28	ジャスコ
コーチ	鈴木孝八郎	1942. 7.11	水海道第二高校
総務	田川正明		
	宮崎　昭		名古屋短期大学附属高校
	繁田順子		四天王寺高校

選手	氏名	生年月日	身長	体重	所属
G.K 1	梅津直美	1967. 3. 1	169cm	59kg	日立栃木
12	三浦葉子	1968. 1.13	174	65	ブラザー工業
16	村山みどり	1969. 1. 9	176	65	名古屋短附高
F.P 2	工藤寛美	1966. 6. 3	164	57	日本ビクター
3	佐藤泰子	1966. 8. 5	169	64	東京重機工業
4	坂倉ゆかり	1966. 9. 6	166	67	ブラザー工業
5	道上圭子	1966.10.23	165	66	ブラザー工業
6	大林恵子	1967. 1. 1	158	54	東京重機工業
7	常石由香	1967. 1. 6	160	58	ジャスコ
8	太田弥生	1967. 3. 8	162	62	日本ビクター
9	中山美和子	1967. 4.12	158	56	立石電機
10	新田千里	1967. 7. 3	167	65	日本体育大学
11	武津優子	1967. 9.19	172	59	立石電機
13	鈴木智津子	1967.10.11	170	62	大和銀行
14	白鳥貴子	1967.11.13	168	68	筑波大学
15	市来未央	1968. 1. 3	159	63	日本体育大学

女子国際親善試合

チェコ「スタルト・ブラチスラバ」4戦全勝で帰国

チェコの名門クラブチーム「スタルト・ブラチスラバ」を迎えての女子国際試合4試合が、6月28日から7月5日まで、各地で開催された。

第1戦で対戦した全日本女子は、12月の世界選手権を控え、気魄のこもった試合ぶりを見せ、終好リードを奪って優位な展開を見せたが、終盤スタミナ切れで惜しくも逆転を許してしまった。

その後、実業団チーム3チームが挑んだがいずれも善戦は見せたものの、プラチスラバの巧さの前に敗れ去った。「ブラチスラバ」のメンバーは、こうして4戦全戦で親善試合を終え、日本での観光も楽しんで帰国した。

▼第1戦

(6月28日／東京駒沢屋内球技場)

ブラチスラバ 29（12－16／17－11）27 全日本女子

チェコのクラブチームの名門「スタルト・ブラチスラバ」を迎えての第1戦は、6月28日、東京・駒沢屋内球技場で全日本チームが対戦しました。

「ブラチスラバ」は、世界のサウスポーとして名高く、チェコ・ナショナルチームのエース格のジュリシノバのホームチームで、年間40試合近い、ハードなチェコの国内リーグでも、常に1・2の成績で、ヨーロッパの名門クラブチームのひとつです。

試合は、我々スタッフの予想通りの打ち合いとなりましたが、速攻を含めた攻撃も、ゴールキーパーの出来を併せた防御の両面から、ふりかえってみたいと思います。

打ち合いを予想した理由は、2月の欧州遠征で、移動日以外は各国のナショナルチーム相手の超過密日程で消化した14試合のすべてに、20点をこえる得点で、半分の7試合は25点に達し、自信を得た攻撃力にありますが、この試合も、前半、小池の豪快なジャンプ、野嶋のステップからのシュートは相手の、特にGKの意表をつくコース、タイミングで決まり、たえず3、4点のリードを保てる理想的な運びとなりました。

ディフェンスは左45度のジュリシノバをマークにウェイトをおいた変型の1―5ラインをしきましたが、一応成功したのか、やや戸惑い気味で打ってくるシュートが多く、GK葛生の落着いたキーピングからの速攻への展開が幾つも生まれました。しかしつなぎの部分で、ややスムーズさを欠き、シュートに入る前にバランスを崩し、絶対に得点しなければならないノーマークに近いシュートを数本ミスして、決定的なリードを奪うまでに至らなかった事が、結果に於て逆転を許す敗因のひとつにあげられ、加速されたスピードの中での、パスやキャッチ、シュートの正確さ、つまりハンドボールの基本技の練習をもっと徹底する必要性を感じました。

ハーフタイムの更衣室で手短かに指示を与えた時、珍らしくプレイヤーが肩で息をしている事に気づき、改めて国際試合での体力消耗の激しさを知らされましたが、後半に入り、前半よく動いた小池、野嶋のシュートが単調に浮き気味になりはじめたのも、前述の部分が起因しているといえます。

久しぶりの日本での国際試合で、我々は幾つかの課題をもちましたが、特に勝つ事と、多くのプレイヤーに出場体験をさせたりする気持ちが重なり、後半4点リードの8分過ぎから、GKを含む若干の起用を試みましたが、その事でせっかくのチームのリズムがこわれて、後半積極的な動きをみせた、ジュリシノバ、そして、右45度からのカットインに鋭い動きをみせたエミーリアの活躍で、シーソーゲームとなった。特に、勝負どころとみたのか、小口、小深田の若いGKにゴールを任せた約10分間に7得点され、ついに並ばれて、23分に1点のリードを許し、結局29対27の2点差で敗れました。

選手交替の難しさと、選手層の薄さが気になる所で、ベンチワークの拙さが、勝てる試合を落とした事になり、悔いを残しました。

元来、ヨーロッパのチームは体格を生かした、力のハンドボールが主流ですが、このチームは、長身の選手も少なく、肥った選手もいなく、その分、動きがシャープで、特にゴール前の縦の動きが鋭く、日本のディフェンスが、ふり切られるケースがあり、位置どりと、フォローのコンビを更に練習

で積むべきだと感じました。また、単独チームの良さで、コンビネーションの妙ともいうべきプレイが、幾つか見られました。日本の選手の中では、GK葛生の守り、小池、野嶋のシュート、そして速攻トリオの池上、近藤、井沢のプレイが通じました。前田、岩村のリーダー、寺沢、山岸、武藤、時実などの中堅プレイヤーの頑張りを、更に期待したい試合でした。（井　薫）

▼第2戦

（6月30日／熊本）

ブラチスラバ 31 〔11—13／20—12〕 25 立石電機山鹿

熊本県ハンドボール協会創立40周年の記念行事の一環としての、国際親善ハンドボール熊本大会は、チェコの「スタルト・ブラチスラバ」を招いて、6月30日、熊本県立総合体育館で、立石電機山麓が対戦しました。

前半、立石のエース・野嶋のステップシュートが連勝して決まり、2点をリード。

「ブラチスラバ」もジュリシノバの強烈なジャンプシュートですぐに追いつき、2対2。

立石はこのあと、近藤、横田の速攻で加点、5対2。こんどはエミーリアが中央突破の2点と追いつ追われつの好試合となりました。

立石は野嶋と並び、打点が高く、日本リーグ前期の個人得点で第2位のエース格の山内が、3日前の全日本合宿、最終日に腰の打撲で欠場というハンディを、江口が気魄のこもったプレイで埋めてくれる活躍、前半を13対11の2点リードで折り返しました。

後半開始、立石はディフェンスラインを2—4にしいてスタート。結果的にこれはエミーリアのカットインを許す事になり不発に終ったが、いろんな作戦を展開出来るのが単独チームの長所であり、一進一退が続きました。

後半10分すぎ、ジュリシノバのシュートフェイントからの巧みなパスが、ポスト、逆45度にわたり加点されましたが、横田の速攻が決まり追いつく。その後、全日本との第1戦同様、後半やや疲れが見え、シュートが単調になった野嶋のプレイを待っていたように、レナータ、マグダレーナのカットインにエミーリアが合わせて得点され、6点差。

立石もここで、江口が左45度からのジャンプシュートをたて続けに3本決め、更に、岩村のポスト、新鋭・福家のサイドからの廻り込みが成功、互いに、単独チームならではのコンビプレイの応酬で、スタンドを湧かせましたが、試合は地力にまさる、「スタンド・ブラチスラバ」が最後はふりきって、31対25で終りました。

全日本チームと同様、後半逆転される展開となりましたが、選抜と単独、各々の利点、そしてマイナス面、貴重な体験の2試合でした。梅雨のさ中で、羽田から熊本への移動は、欠航となり、福岡へ代るアクシデントもありましたが、阿蘇山への観光の時は、幸いにも青空に恵まれ、火山や、牧草に遊ぶ、牛や馬の群れに、メンバーは大喜びで、歓迎パーティ席上の歌の交歓を含めて、楽しい国際親善の大会でした。（井　薫）

▼第3戦

（7月2日／甲府）

ブラチスラバ 34 〔16—11／18—12〕 23 日本シャトレーゼ

▼第4戦

（7月5日／茨城県岩井市）

ブラチスラバ 30 〔15—13／15—14〕 27 日本ビクター

[第 1 戦]

得	〔ブラチスラバ〕		〔全日本〕	得
0	ベザコーバ	GK	葛生	0
0	ハゼカショバ	GK	山口	0
0	グロバ	GK	小深田	0
4	ハニシコバ	FP	武藤	2
1	エリアショバ	FP	岩村	1
0	セクバレニノバ	FP	寺沢	0
7	デュリシノーバ	FP	近藤	2
3	モラグコバ	FP	小池	6
0	ガイドシコバ	FP	池上	3
1	ディムコバ	FP	前田	2
0	ホゴシンゲセバ	FP	時実	0
6	スタンショバ	FP	井沢	2
7	クトコーバ	FP	山岸	1
			市川	0
			野嶋	8
			小口	0
			磯山	0
29	(2)	PT	(4)	27

（審　後藤・島田）

[第 2 戦]

得	〔ブラチスラバ〕		〔立石〕	得
0	ベザコーバ	GK	荒木	0
0	ハゼカショバ	GK	岡本	0
0	グロバ	GK	竹下	0
0	ハニシコバ	FP	山口	0
2	エリアショバ	FP	近藤	2
2	セクバレニノバ	FP	江口	7
14	デュリシノーバ	FP	岩村	3
2	モラグコバ	FP	池上	0
0	ガイドシコバ	FP	野嶋	8
0	ディムコバ	FP	山内	0
0	ホゴシンゲセバ	FP	横田	3
9	スタンショバ	FP	田中	0
2	クトコーバ	FP	福屋	2
			野津	0
			毛利	0
31	(6)	PT	(1)	25

（審　大宮・阪本）

各地の記録から…

第31回（女子14回）中国一般選手権

（5月17、18日／江津市民体育館、温泉津町体育館）

〈男子〉

▼1回戦

自衛隊県（広島）28―19 鳥取大（鳥取）
岡山教員（岡山）39―12 松江ク（島根）
境港ク（鳥取）29―17 島根大（島根）
岩国ク（山口）21―17 岡山大（岡山）
広島教員（広島）24―21 朝酌ク（広島）
山口教員団（山口）21―19 倉吉ク（鳥取）
下関ク（山口）27―20 江津ク（島根）
広島大（広島）30―17 白桃ク（岡山）

▼2回戦

自衛隊県 34―29 岡山教員
境港ク 45―22 岩国ク
山口教員団 37―25 広島教員
下関ク 26―22 広島大

▼準決勝

境港ク 31―25 自衛隊県
山口教員団 27―24 下関ク

▼決勝

山口教員団 24（10―9、14―11）20 境港ク

〈女子〉

▼1回戦

広島ク（広島）21―5 岩国ク（山口）

▼準決勝

広島ク 26―8 境港ク（鳥取）
天城ク（岡山）30―6 松江女高ク（島根）

▼決勝

天城ク 17（10―4、7―9）13 境港ク

※女子は全国クラブ大会中国地区予選を兼ねる。

第40回愛知県高校総体

（5月25日、6月1、8日／岡崎北高校）

〈男子〉

▼1回戦

桜台 38―10 豊橋西
守山 24―15 半田
瑞穂 23―16 犬山南
千種 25―12 常滑北
中京 30―24 刈谷北
岡崎東 17―15 蟹江

▼2回戦

岡崎城西 22―19 桜台
一宮西 30―21 守山
半田東 18―17 国府
旭丘 23―16 瑞陵
名南工 28―19 千種
一宮 25―16 岡崎北
中京 34―14 豊橋工
愛知 36―11 岡崎東

▼3回戦

岡崎城西 23―16 一宮西
旭丘 19―15 半田東
一宮 20―17 名南工
愛知 27―17 中京

▼決勝リーグ

岡崎城西 28（16―10、12―6）16 旭丘
愛知 32（15―6、17―6）12 一宮
岡崎城西 28（15―11、13―9）20 一宮
愛知 26（15―4、11―8）12 旭丘
一宮 27（13―8、14―8）16 旭丘
愛知 23（12―10、11―8）18 岡崎城西

［順位］①愛知②岡崎城西③一宮④旭丘

※愛知は4年ぶり3回目の優勝。

〈女子〉

▼1回戦

一宮女 20―10 菊里
岡崎 11―9 半田東
日進西 23―14 新城東
安城学園 18―6 蒲郡
向島 17―16 豊田南
半田商 17―15 尾西

▼2回戦

名短付 34―5 一宮女
蟹江 11―10 岡崎
緑丘商 34―14 一宮興進
三好 23―5 日進西
桜台 17―6 安城学園
市郁 21―9 半田
豊橋西 15―14 向陽
中京女 29―5 半田商

▼3回戦

名短付 33―5 蟹江
緑丘商 15―8 三好
市郁 18―11 桜台
中京女 31―13 豊橋西

▼決勝リーグ

名短付 23（10―3、13―5）8 市郁
中京女 21（11―11、10―6）17 緑丘商
名短付 24（10―4、14―3）7 緑丘商
中京女 13（8―8、5―5）13 市郁
緑丘商 15（7―7、8―5）12 市郁
名短付 19（8―8、11―3）11 中京女

［順位］①名短付②中京女③緑丘商④市郁

※名短付は2年連続5回目の優勝。

第21回鳥取県高校総体

（6月1、2日／倉吉産業高校）

〈男子〉

▼1回戦

米子北 30―17 米子西
境工 棄権 倉吉東
米子東 25―15 倉吉工

▼準決勝

境 35―7 米子北
境工 22―14 米子東

▼敗者復活1回戦

倉吉工 棄権 倉吉東

▼同2回戦

米子東 21―9 米子西
米子北 23―20 倉吉工

▼3位決定戦

米子北 22―19 米子東

▼決勝

境 24（16―5、8―3）8 境工

〈女子〉

▼1回戦

境 29―6 米子東
米子西 16―12 倉吉西
米子南 27―7 倉吉産

▼準決勝

米子北 15―11 境
米子南 26―12 米子西

▼敗者復活1回戦

倉吉産 14―13 倉吉西

▼同2回戦

米子西 22―9 米子東
境 22―8 倉吉産

▼3位決定戦

境 29―14 米子西

▼決勝

米子北 15（10―4、5―6）10 米子南

長野県高校総体

（日程、場所不明）

〈男子〉

▼1回戦

北佐久農 28―8 上水内北部
坂城 18―10 野沢北
田川 30―14 上田千曲
上田 25―7 長野東
松本一 不戦勝 臼田
野沢南 19―12 松本美須々ケ丘

▼2回戦

小諸 43―14 北佐久農
坂城 26―12 田川
上田 36―6 松本一
尾代 23―11 野沢南

▼準決勝

小諸 24―15 坂城
上田 15―14 屋代

▼決勝

小諸 14（10―6、4―6）12 上田

※小諸は初優勝。

〈女子〉

▼1回戦

松本蟻ヶ崎 14―13 臼田
屋代 30―5 松本美須々ケ丘
北佐久農 29―3 上田千曲

▼2回戦

佐久 43―8 松本蟻ヶ崎

田川 31－4 小海
屋代 16－8 小諸商
塩尻 23－11 北佐久農

▼準決勝
佐久 27－9 田川
塩尻 17－9 屋代

▼決勝
佐久 29（12－9、17－4）13 塩尻

※佐久は2年連続5回目の優勝。

鹿児島高校総体

〈男子〉

▼1回戦
鹿児島南 30－13 財部
甲南 24－18 頴娃
指宿 42－24 川内商工
鹿児島商 19－15 薩南工
加世田 28－12 出水工

▼2回戦
大島 22－17 鹿児島南
加治木工 36－21 甲南
笠沙 21－18 甲陵
隼人工 33－16 指宿
出水 22－16 鹿児島商
国分 20－6 志布志
鹿児島中央 16－10 加治木
鹿児島工 22－10 加世田

▼3回戦
大島 19－16 加治木工
隼人 22－21 笠沙
出水 18－12 国分
鹿児島工 26－8 鹿児島中央

▼決勝リーグ
大島 23（13－4、10－9）13 隼人工
鹿児島工 29（14－7、15－7）14 出水
大島 29（16－5、13－4）9 出水
鹿児島工 25（12－7、13－9）16 隼人工
隼人工 27（13－10、14－12）22 出水
大島 12（7－5、5－6）11 鹿児島工

［順位］①大島②鹿児島工③隼人工④出水

〈女子〉

▼1回戦
牧園 36－2 串木野女
奄美 15－11 串良商
財部 22－10 鹿児島中央
国分実 18－5 出水
鹿児島南 22－5 川辺
大島 30－3 志布志
岩川 26－10 川内商工
鹿児島純心 43－3 種子島実

▼2回戦
牧園 32－6 奄美
国分実 20－9 財部
鹿児島南 20－10 大島
鹿児島純心 37－5 岩川

▼決勝リーグ
牧園 26（14－0、12－4）4 国分実
鹿児島南 15（9－6、6－2）8 鹿児島純心
牧園 20（9－7、11－3）10 鹿児島南
国分実 13（8－7、5－2）9 鹿児島純心
牧園 18（11－1、7－2）3 鹿児島純心
鹿児島南 10（4－3、6－7）10 国分実

［順位］①牧園②鹿児島南③国分実④鹿児島純心

北信越高校

（6月20～22日／羽水高、高志高）

〈男子〉

▼1回戦
小松工（石川）33－19 藤島（福井）
小諸（長野）20－12 高志（福井）
氷見（富山）32－19 長岡大手（新潟）
上田（長野）24－18 金津（福井）

▼2回戦
小松工 24－20 高岡向陵（富山）
新潟江南（新潟）23－15 小諸
氷見 28－17 北陸（福井）
小松明峰（石川）30－18 上田

▼準決勝
小松工 25（11－8、14－8）16 新潟江南
氷見 23（13－8、10－12）20 小松明峰

▼決勝
小松工 24（12－11、12－10）21 氷見

〈女子〉

▼1回戦
有磯（富山）19－5 高志（福井）
塩尻（長野）20－15 長岡大手（新潟）
新潟江南（新潟）23－2 武生商（福井）
小松商（石川）27－6 仁愛女（福井）

▼2回戦
小松市女（石川）25－8 有磯
福井商（福井）24－5 塩尻
佐久（長野）19－14 新潟江南
小松商 29－9 高岡商（富山）

▼準決勝
小松市女 35（17－2、18－4）6 福井商
小松商 32（14－7、18－4）11 佐久

▼決勝
小松市女 15（6－4、9－4）8 小松商

全国高校総体茨城県予選

（6月21、22日／笠間高）

〈男子〉

▼1回戦
岩井 30－10 太田一
八郷 26－8 水戸一
江戸川学園 23－16 笠間
土浦湖北 26－23 土浦工
竜ヶ崎一 20－18 水海道一
藤代紫水 31－20 鉾田一
鹿島灘 24－24（3PTC2）守谷
麻生 23－12 日立一

▼2回戦
岩井 28－21 八郷
土浦湖北 31－30 江戸川学園
竜ヶ崎一 27－21 藤代紫水
麻生 37－15 鹿島灘

▼準決勝
岩井 25－20 土浦湖北
麻生 29－15 竜ヶ崎一

▼決勝
岩井 22（12－5、10－3）8 麻生

〈女子〉

▼1回戦
結城二 20－10 麻生
水海道一 17－12 鉾田一
潮来 24－13 土浦三

竜ヶ崎一 25-8 藤代紫水
竜ヶ崎二 36-6 水戸二
那珂湊二 12-11 太田二
土浦二 16-12 石岡二
水海道二 32-5 下館二

▼2回戦
結城二 24-10 水海道一
潮来 12-11 竜ヶ崎一
竜ヶ崎二 29-2 那珂湊二
水海道二 25-5 土浦二

▼準決勝
結城二 25-8 潮来
水海道二 22-13 竜ヶ崎二

▼決勝
水海道二 22 (11-7, 11-8) 15 結城二

茨城県民総体

（6月28、29日／笠間市民体育館）

◎県民総体の部

〈男子〉

▼1回戦
土浦三高OB 28-14 千代田ク

▼2回戦
土浦三高OB 22-21 茨城大
動燃東海 棄権 自衛隊施設学校

▼決勝
動燃東海 27 (16-8, 11-16) 24 土浦三高OB

〈女子〉

▼決勝
茨城大 10 (5-4, 5-2) 6 桜芳ク

◎国体予選の部

〈男子〉

▼1回戦
自衛隊勝田 23-14 日本原研

▼2回戦
筑波学園ク 33-17 自衛隊勝田
茨苑ク 32-18 守谷30 40

▼決勝
筑波学園ク 36 (21-9, 15-14) 23 茨苑ク

全国クラブ選手権近畿予選

（6月29日／彦根東、彦根工業高校）

〈男子〉

▼リーグ戦
雪陵ク 19-5 神戸ク
〈大阪〉 〈兵庫〉
東山ク 16-13 県和商ク
〈京都〉 〈和歌山〉
八幡ク 10-7 生駒ク
〈滋賀〉 〈奈良〉
雪陵ク 10-9 県和商ク
東山ク 19-8 神戸ク
八幡ク 14-5 神戸ク
雪陵ク 12-0 生駒ク
県和商ク 15-8 八幡ク
生駒ク 22-7 神戸ク
雪陵ク 12-12 八幡ク
生駒ク 14-10 東山ク
東山ク 17-10 八幡ク
県和商ク 11-7 神戸ク
生駒ク 12-8 県和商ク
雪陵ク 13-9 東山ク

〔順位〕①雪陵ク②東山ク③生駒ク④八幡ク⑤県和商ク⑥神戸ク
※上位4チームが全国大会へ。

〈女子〉

▼リーグ戦
古都ク 17-5 風見鶏ク
〈京都〉 〈兵庫〉
大和ク 22-3 県和商ク
〈大阪〉 〈和歌山〉
滋賀ク 7-5 風見鶏ク
〈滋賀〉
古都ク 19-5 県和商ク
滋賀ク 10-9 大和ク
風見鶏ク 15-7 県和商ク
古都ク 8-8 大和ク
滋賀ク 17-5 県和商ク
大和ク 13-9 風見鶏ク
古都ク 8-2 滋賀ク

〔順位〕①古都ク②滋賀ク③大和ク④風見鶏ク⑤県和商ク

愛媛県高校総体

（日程、場所／不明）

〈男子〉

▼1回戦
今治工 19-13 新居浜商
松山北 49-6 吉田
新居浜西 28-11 松北中島

▼2回戦
新居浜工 51-5 今治工
今治西 55-5 新居浜東
松山東 19-17 宇和島東
松山北 21-14 伊予
今治東 21-19 松山南
今治南 20-19 松山工
松山西 43-10 松山商
新田 31-8 新居浜西

▼3回戦
新居浜工 27-15 今治西
松山北 20-14 松山東
今治東 47-7 今治南
松山西 19-10 新田

▼準決勝
新居浜工 22-14 松山北
松山西 23-17 今治東

▼決勝
新居浜工 16 (7-5, 9-9) 14 松山西

〈女子〉

▼1回戦
今治西 22-9 新居浜東
弓削 30-12 今治東

▼2回戦
今治北 30-5 今治西
新居浜商 17-16 三崎
松山北 25-9 大島
今治南 30-4 伊予
伊予農 33-5 西条
松山商 45-3 土居
東温 18-15 弓削
松山西 20-12 松北中島

▼3回戦
今治北 31-7 新居浜商
松山北 21-18 松山西
今治南 24-5 伊予農
東温 22-5 松山商

▼準決勝
今治北 16-8 松山北
今治南 16-10 東温

▼決勝
今治北 19 (10-4, 9-9) 13 今治南

愛媛県中学総体

（日程、場所／不明）

〈男子〉

▽地区大会

▼Aゾーン1回戦
松山西 22-4 雄新

▼同準決勝
松山南 20-15 松山西
津田 16-15 勝山

▼同決勝
松山南 25-12 津田

▼Bゾーン1回戦
松山南二 15-2 道後
椿 27-18 三津浜

▼同決勝
椿 32-21 松山南二

▽県大会

▼決勝
椿 22 (7-7, 15-5) 12 松山南

〈女子〉

▽地区大会

▼1回戦

松山西 16－15 勝山

▼準決勝

松山東 12－10 松山西

津田 28－7 松山椿

▼決勝

津田 12－7 松山東

▽県大会

▼リーグ戦

松山東 9（5－3、4－5）8 津田

津田 19（11－3、8－4）7 新居浜東

松山東 12（7－2、5－2）4 新居浜東

【順位】①松山東②津田③新居浜東

全国クラブ選手権中国地区予選

（7月6日／日新製鋼呉体育館）

〈男子〉

▼リーグ戦

岩国ク 33（17－9、16－12）21 送球会（広島）

境港ク（鳥取）33（17－5、16－9）14 送球会

境港ク 26（14－9、12－8）17 岩国ク

【順位】①境港ク②岩国ク③送球会

※上位2チームが全国大会へ。

国体青森県予選

○成年の部

（7月12、13日／野辺地町立体育館）

〈成年男子〉

▼1回戦

野辺地ク 不戦勝 尾上ク

七戸ユニオン 28－27 青森市選抜B

青森市選抜A 54－22 海自大湊

海自二空 没収 弘前ク

▼準決勝

野辺地ク 30－22 七戸ユニオン

青森市選抜A 46－5 海自二空

▼決勝

青森市選抜A 30（15－15、15－14）29 野辺地ク

〈成年女子〉

○第1戦

あすなろク 26（16－10、10－10）20 野辺地ク

○第2戦

野辺地ク 26（13－10、13－11）21 あすなろク

○少年の部

（7月19、20日／青森商高）

〈少年男子〉

▼1回戦

三本木 18－9 柏木農

青森山田 20－16 十和田工

青森 27－14 野辺地工

▼2回戦

野辺地 26－9 三本木

青森東 18－12 今別

青森山田 27－26 青森南

青森商 33－12 青森

▼準決勝

野辺地 27－13 青森東

青森商 34－8 青森山田

▼決勝

野辺地 19（11－10、8－8）18 青森商

〈少年女子〉

▼1回戦

三本木 14－8 青森東

青森商 22－10 青森中央

野辺地 40－4 今別

▼準決勝

青森西 36－9 三本木

青森商 14－13 野辺地

▼決勝

青森西 24（12－6、12－4）10 青森商

第15回東北中学青森県予選

（7月13日／野辺地町立体育館）

〈男子〉

浦町中 18（12－4、6－4）8 荒川中

〈女子〉

※野辺地中が代表。

第22回東海実業団

（7月13、20日／鈴鹿市体育館、本田技研鈴鹿体育館）

▼1回戦

日本耐酸壜 30－15 日本碍子

日本電装 40－9 三洋電機

サンケミカル 22－17 パイロットインキ

豊田合成 23－21 豊田工機

▼2回戦

新日鉄名古屋 37－12 サンケミカル

豊田自織 23－19 豊田合成

トヨタ車体 22－16 日本電装

○Aの敗者

日本碍子 23－16 三洋電機

○Bの敗者

豊田工機 26－11 パイロットインキ

▼3回戦

本田技研鈴鹿 44－11 日本耐酸壜

トヨタ自動車 27－15 新日鉄名古屋

大同特殊鋼 33－13 豊田自動織機

トヨタ車体 26－23 本田炎風会

▼準決勝

本田技研鈴鹿 23－21 トヨタ自動車

大同特殊鋼 30－14 トヨタ車体

▼3位決定戦

トヨタ自動車 23－21 トヨタ車体

▼決勝

大同特殊鋼 22（12－6、10－7）13 本田技研鈴鹿

〈女子〉

▼決勝

ブラザー工業 20（12－9、8－7）16 ジャスコ

国体新潟県予選

（7月20日／柏崎工業高校）

〈成年男子〉

▼1回戦

柏崎ク 26－19 新潟教員

▼決勝

柏崎ク 31（16－2、15－3）5 小松造機

〈少年男子〉

▼1回戦

柏崎 19－10 長岡大手

▼準決勝

新潟選抜 17－9 柏崎

柏崎工 23－12 中越

▼決勝

新潟選抜 24（14－3、10－2）2 柏崎工

※成年女子は新潟江南ＯＧ、少年女子は新潟江南高。

四国高校

（7月21、22日／愛媛県体育館）

〈男子〉

▼1回戦

松山西（愛媛）27－12 高松商（香川）

土佐（高知）28－17 三好農林（徳島）

新居浜工（愛媛）26－10 高松西（香川）

池田（徳島）20－19 追手前（高知）

▼準決勝

松山西 31（13－12、18－4）16 土佐

▼3位決定戦
新居浜工 41（23−4、18−5）9 池田
土佐 22（13−7、9−9）16 池田
▼決勝
新居浜工 21（7−6、8−9、4−0、2−0）15 松山西

〈女子〉
▼1回戦
富岡東（徳島）28（12−2、16−5）7 高知西（高知）
高松商（香川）19（11−4、8−10）14 今治南（愛媛）
高松南（香川）15（8−6、7−8）14 高知東（高知）
今治北（愛媛）35（22−5、13−3）8 城北（徳島）
▼準決勝
高松商 31（14−5、17−11）16 富岡東
今治北 21（12−4、9−5）9 高松南
▼3位決定戦
高松南 16（9−4、7−4）8 富岡東
▼決勝
高松商 17（12−3、5−6）9 今治北

国体石川県予選

（7月22〜24日／金沢市総合体育館、金沢美大体育館）

〈少年男子〉
▼1回戦
小松明峰 35−6 松任
金沢商 19−15 金沢
県工 19−11 金沢市工
二水 19−16 松陵
泉丘 20−13 向陽
小松工 33−8 寺井
小松商 24−15 星稜
小松 27−15 錦丘
▼2回戦
小松明峰 49−8 金沢商
県工 31−10 二水
小松工 35−14 泉丘
小松商 20−17 小松
▼準決勝
小松明峰 36−17 県工
小松工 40−19 小松商
▼決勝
小松工 19（8−9、11−7）16 小松明峰

〈女子〉
▼1回戦
金沢商 13−4 小松明峰
小松市女 42−2 星稜
短大附 17−9 松任
小松商 32−5 寺井
▼準決勝
小松市女 36−1 金沢商
小松商 38−7 短大附
▼決勝
小松市女 25（12−3、13−5）8 小松商

第26回香川県中学総体

（7月25、26日／光洋中学）

〈男子〉
▼1回戦
木太 19−16 紫雲
山田 19−8 光洋
▼2回戦
香川一 28−4 木太
古高松 14−11 桜町
勝賀 19−17 玉藻
香東 17−15 山田
▼準決勝
香川一 22−10 古高松
香東 25−8 勝賀
▼決勝
香川一 20（10−6、10−4）10 香東

〈女子〉
▼1回戦
古高松 12−3 太田
塩江 20−3 紫雲
光洋 13−10 木太
▼2回戦
香東 15−9 古高松
塩江 27−6 桜町
香川一 15−5 玉藻
山田 27−11 光洋
▼準決勝
香東 9−7 塩江
山田 8−6 香川一
▼決勝
山田 13（6−4、7−3）7 香東

第39回三重県中学大会

（7月29、30日／西笹川中）

〈男子〉
▼1回戦
菰野 35−4 東員第一
▼2回戦
西朝明 25−4 南
明和 19−7 白子
西笹川 20−7 菰野
亀山 30−4 東員第二
▼準決勝
西笹川 28−9 西朝明
亀山 19−7 明和
▼決勝
西笹川 20（7−7、8−8、3−0、2−4）19 亀山

〈女子〉
▼1回戦
笹川 19−7 桔梗が丘
朝明 棄権 三雲
菰野 15−5 拓植
西朝明 31−7 大安
▼2回戦
西笹川 18−9 笹川
朝明 7−2 東員第二
亀山 8−6 菰野
西朝明 16−8 名張北
▼準決勝
西笹川 20−2 朝明
西朝明 15−2 亀山
▼決勝
西笹川 19（10−4、9−5）9 西朝明

第24回四国中学総体

（8月3日／——）

〈男子〉
▼1回戦
香川一（香川）39（21−2、18−1）3 池田一（徳島）
城北（高知）22（7−9、15−9）18 椿（愛媛）
▼3位決定戦
椿 35（19−3、16−2）5 池田一
▼決勝
香川一 13（3−3、10−8）11 城北
※香川一は2年連続2回目の優勝。

〈女子〉
▼リーグ戦
山田（香川）15（6−6、9−3）9 松山東（愛媛）
小川（高知）14（5−5、9−4）9 松山東
山田 15（7−1、8−2）3 小川
※山田は2年連続3回目の優勝。

関東学生春季リーグ戦（二部以下）

▼男子2部

順大 52－10 武工大
明大 30－23 東理大
東大 18－18 東学大
東海大 10－10 専大
東学大 41－11 専大
東海大 36－12 東大
明大 34－15 武工大
東学大 37－17 東理大
明大 27－14 東大
順大 38－7 専大
東海大 34－13 武工大
順大 30－22 東理大
東学大 45－17 武工大
明大 37－12 専大
順大 24－15 東大
東海大 32－9 東理大
東理大 28－23 専大
東大 23－20 武工大
順大 22－17 東学大
明大 26－26 東海大
武工大 35－23 東理大
順大 23－19 東海大
東学大 18－16 明大
武大 22－21 専大
東大 25－13 専大
東海大 26－24 東学大
順大 26－24 明大
東大 33－25 東理大

［順位］①順天堂大②東海大③東京学芸大④明治大⑤東京大⑥武蔵工業大⑦東京理科大⑧専修大

▼男子3部

東農大 29－18 駒大
明星大 25－19 立大
埼玉大 29－26 一橋大
上智大 30－19 茨城大
駒大 27－18 上智大
立大 26－18 上智大
立大 26－23 駒大
上智大 24－11 一橋大
東農大 27－14 埼玉大
立大 39－26 埼玉大
駒大 30－18 明星大
一橋大 30－14 立大
上智大 22－19 東農大
東農大 23－18 立大
駒大 30－23 埼玉大
明星大 23－18 一橋大
上智大 32－25 埼玉大
上智大 23－19 明星大
茨城大 36－22 埼玉大
駒大 20－19 上智大
東農大 25－24 明星大
東農大 27－13 茨城大
駒大 32－19 一橋大
一橋大 28－21 東農大
茨城大 21－17 立大
一橋大 30－29 茨城大

［順位］①駒沢大②上智大③東京農業大④明星大⑤一橋大⑥立教大⑦茨城大⑧埼玉大

▼男子4部

神奈川大 24－17 創大
横市大 11－10 創大
国武大 29－27 防大
横市大 29－14 千工大
創大 24－20 芝工大
都立大 32－22 神奈川大
芝工大 32－24 防大
防大 19－15 千工大
防大 25－19 都立大
千工大 30－25 創大
都立大 24－18 横市大
国武大 31－24 芝工大
神奈川大 24－17 芝工大
防大 26－22 創大
国武大 22－15 横市大
神奈川大 21－20 横市大
国武大 27－22 千工大
芝工大 32－13 都立大
国武大 32－17 創大
都立大 30－12 千工大
芝工大 26－23 横市大
国武大 37－23 神奈川大
都立大 25－20 創大
横市大 25－25 防大
神奈川大 22－18 防大
国武大 25－17 都立大

［順位］①国際武道大②神奈川大③東京都立大④防衛大⑤芝浦工業大⑥横浜市立大⑦創価大⑧千葉工業大

▼男子5部

横国大 12－10 亜大
亜大 24－17 都留大
東経大 32－17 独大
横国大 20－18 文大
関学大 30－15 独大
農工大 25－16 横国大
東経大 22－14 関学大
横国大 22－22 関学大
成蹊大 24－16 青学大
農工大 27－20 文大
農工大 32－14 亜大
農工大 39－27 関学大
東経大 28－16 亜大
東経大 27－20 横国大
独大 26－21 亜大
都留大 32－22 関学大
東経大 28－17 農工大
亜大 28－27 文大
農工大 29－21 独大
都留大 25－24 横国大
関学大 32－24 亜大
東経大 30－16 文大
東経大 21－12 都留大
農工大 28－26 都留大
独大 25－23 都留大

［順位］①東京経済大②東京農工大③独協大④関東学院大⑤横浜国立大⑥文教大⑦都留文科大⑧亜細亜大

▼男子6部

東工大 22－12 成蹊大
千葉大 32－17 東外大
大東大 24－23 東外大
青学大 29－23 武蔵大
成蹊大 22－18 武蔵大
青学大 29－24 大東大
玉川大 31－21 東外大
大東大 23－18 東工大
千葉大 31－16 大東大
東工大 27－16 武蔵大
成蹊大 19－18 玉川大
青学大 28－24 東外大
千葉大 26－13 成蹊大
玉川大 23－19 東工大
成蹊大 29－17 大東大
東工大 25－14 東外大
千葉大 24－12 玉川大
千葉大 35－15 武蔵大
青学大 25－25 千葉大
武蔵大 33－23 東外大
武蔵大 29－20 玉川大
青学大 32－21 玉川大
成蹊大 32－18 東外大
大東大 27－26 玉川大
青学大 35－26 東工大
武蔵大 30－26 大東大

［順位］①千葉大②成蹊大③青山学院大④武蔵大⑤大東文化大⑥東京工業大⑦玉川大⑧東京外語大

▼男子7部

東洋大 45－12 群馬大
拓大 22－19 群馬大
明学大 28－18 拓大
横商大 54－16 工芸大
東洋大 35－10 拓大
横商大 25－18 産能大
明学大 23－14 帝京大
帝京大 21－21 東洋大
産能大 46－22 日工大
日工大 35－30 工芸大
東洋大 14－12 明学大
拓大 31－19 工芸大
産能大 41－27 工芸大
横商大 40－14 日工大
帝京大 28－13 拓大
明学大 22－19 産能大
横商大 26－25 東洋大

［順位］①横浜商科大②東洋大③明治学院大④産業能率大⑤帝京大⑥日本工業大⑦拓殖大⑧東京工芸大⑨群馬大⑩山梨大⑪和光大⑫杏林大

▼女子2部

文教大 22－8 玉川大
千明短大 29－12 創価大
千葉大 21－10 玉川大
茨城大 20－9 都留大
都留大 13－8 創価大
千明短大 40－10 玉川大
茨城大 24－10 千葉大
文教大 26－12 都留大
千明短大 21－14 都留大
文教大 23－7 千葉大
茨城大 25－12 創価大
玉川大 18－18 都留大
文教大 26－13 創価大
千明短大 23－18 文教大
都留大 10－9 千葉大
茨城大 41－4 玉川大
千明短大 15－15 千葉大
文教大 16－14 茨城大
千葉大 22－11 創価大
千明短大 19－11 茨城大
創価大 31－9 玉川大

［順位］①千葉明徳短大②文教大③茨城大④都留文科大⑤千葉大⑥創価大⑦玉川大

MIZUNO

THE WORLD OF SPORTS

SINCE 1906

ボクら、万有引力とたわむれる

コンケーブ意匠

ヘリホーン意匠

サイドモーション サポートリブ

ピボットリング

フレキシブルゾーン

パワー効率重視。コートのマシン〈ランバード〉

室内コート専用のマルチファンクション ソール。

前後左右、あらゆる方向へのトラクション性にすぐれたヘリンボーン意匠をベースに、かかとには着地時の衝撃を吸収、分散するコンケーブ意匠を配置。また、ソール前半にはパワーロスを防ぐサイドモーション サポートリブ、回転運動の軸となるピボットリングをはじめ、屈曲性を高めるフレキシブルゾーンなどをレイアウト。多様なプレーに対応するソールパターンが生まれました。

〈ランバード〉ハンドボール シューズ

《ウイング ショット》¥12,000

- 甲/牛革 ● 補強材/人工皮革 ● 底/ラバー ハーフ シェル ソール
- カラー/**16KH-1527** ホワイト・レッドにメタリックネイビー ライン
  /**16KH-1562** ホワイトにレッド ライン



RunBird

for The Sports-minded Cosmopolitan

告知板

競技用具の検定について

日本ハンドボール協会では、ハンドボール競技の適正な実施および安全への配慮などの点から、従来より検定制度を実施していたボール、ゴールネットに続き61年度からゴールの検定制度を実施することになりました。これにより、競技には『検定ボール』『検定ゴールネット』『検定ゴール』を使用することにより公式競技として認められることになります。

新たに、検定制度を実施するゴールにつきましては、昭和61年4月1日以前に購入されていて競技規則に適合し、耐用期間中のゴールについては、移行措置として引続き使用出来るものとしますが、以後新たに購入する場合は、下記の検定ゴール業者が製造する『検定ゴール』(検定証貼付)を購入されるようお願い致します。

なお、兼ねてから検討しておりました『小学生ハンドボール』について、このたび『軽量2号ボール』(重量265ｇ±15ｇ。周囲54～56cm)が検定ボールとして決定しましたのでお知らせ致します。

ハンドボール用ゴール　検定業者一覧

社　　名	所　　在　　地
イ　ノ　コ　株式会社	〒454　愛知県名古屋市中川区山王4－6－34 TEL　052－331－3311　(代)
株式会社　都村製作所	〒766　香川県仲多度郡琴平榎井590 TEL　0877－73－2251　(代)
栗林体器　株式会社	〒877　大分県日田市玉川町69 TEL　0973－22－5151　(代)
株式会社　関西金属運動具製作所	〒111　東京都台東区松が谷2－7－9 TEL　03－841－6604　(代)
株式会社　三英商会	〒270-01　千葉県流山市初石5－146 TEL　0471－53－3621　(代)
三和体育製販　株式会社	〒332　埼玉県川口市緑町9－15 TEL　0482－55－6121　(代)
稲荷体育用品　株式会社	〒061-24　北海道札幌市西区手稲山口438 TEL　011－682－2351
合名会社　上坂鉄工所	〒131　東京都墨田区本所4－28－8 TEL　03－622－8171　(代)
株式会社　小川長春館	〒721　広島県福山市引野町5－46 TEL　0849－41－0230
株式会社　舟岡製作所	〒130　東京都墨田区石原4－34－2 TEL　03－624－0551　(代)
セ　ノ　ー　株式会社	〒101　東京都千代田区神田司町2－7 TEL　03－292－5411
株式会社　中村体育器具工場	〒386-01　長野県上田市国分仁王堂1190－4 TEL　0268－22－0896　(代)
株式会社　藤　英	〒110　東京都台東区入谷1－9－10 TEL　03－876－0641～3
赤羽根工業　株式会社	〒343　埼玉県越谷市増森207－1 TEL　0489－65－1571　(代)

ハンドボール用ボール　検定業者一覧

社　　名	所　　在　　地
入間川ゴム　株式会社	〒350-13　埼玉県狭山市入間川1－15－40 TEL　0429－53－3131
株式会社　モルテン	〒130　東京都墨田区横川5－5－7 TEL　03－621－4551
明星ゴム工業　株式会社	〒733　広島県西区楠木町3－11－2 TEL　082－237－5145
タチカラ　株式会社	〒111　東京都台東区松ヶ谷1－11－7 TEL　03－842－6811　(代)

ハンドボール用ゴールネット　検定業者一覧

テイエヌネット　株式会社	〒136　東京都江東区亀戸4－45－15 TEL　03－637－3232　(代)
鐘屋産業　株式会社	〒581　大阪府八尾市　振町3－18 TEL　0729－96－5656
松本製網　株式会社	〒581　大阪府八尾市福万寺町4－72 TEL　0729－22－3217
株式会社　アシックス	〒650　神戸市中央区港島中町7－1－1 TEL　078－303－3333　(代)
高須賀　株式会社	〒136　東京都江東区亀戸3－43－24 TEL　03－684－7791
株式会社　寺西喜商店	〒581　大阪府八尾市福万寺町4－31 TEL　0729－22－3210
有限会社　ミセキネット製作所	〒340-01　埼玉県東葛飾郡幸手町中1－7－4 TEL　0480－42－0379

昭和61年度　A・B級審判員合格者

○**A級**（23名中合格13名＝東京）

山本浩之、浅井隆志（大阪）、柳原勉、真木崇（愛媛）、高木進（青森）、細沢覚（静岡）、日比丈司、川合常雄（岐阜）、庄司勝三（福井）、中山富夫、大出治男（栃木）、杉山努（東京）、上小沢仁志（山梨）

○**B級**

〈**東北地区**（18名中合格14名＝仙台）〉

星保信、伊藤靖、清水勝、棚橋伸男、錦織進（北海道）、高橋元一、小笠原忠芳（岩手）、遠藤勲、芳賀弘一（山形）、工藤茂、藤本幸一（青森）、池田加一、小林敏、照井裕幸（宮城）

〈**東地区**（16名中合格12名＝茨城）〉

鈴木孝八郎、立原定宗、細谷安司、塚田芳明、田中栄、高野実、松信登、矢萩勉、富永保、中村博之（茨城）、碓井裕央（東京）、大鐘雅善（千葉）

〈**中地区**（18名中合格14名＝京都）〉

槇健児、渡辺真彦（愛知）、平賀達也、中森一郎、宇尾野章（三重）、武田憲樹、太田朗、崎山充博、井上清光、能波羊二（滋賀）、佐路清隆、西村純（京都）、吉村剛志、佐谷光一（大阪）

〈**西地区**（15名中合格11名＝鹿児島）〉

野村幹雄、加藤晃（山口）、田中達男（愛媛）、田中守、川村浩之、知佐野健吾、池田修（福岡）、鎌田良治、大川内誠（長野）、荷川取孝吉、宮元章次（沖縄）



高度なスカイプレーが変幻自在。

スカイハンド®スペシャル（THH705）

- カラー　ホワイト×レッド・レッド×ホワイト・ロイヤルブルー×ホワイト
- サイズ　22.5～28.0cm
- アッパー　ステア表革（ホワイト×レッド）
  牛革ベロア（レッド×ホワイト、ロイヤルブルー×ホワイト）

標準小売価格 ¥13,000

asics. TIGER.

襲う。

ストップ&ジャンプ性能を徹底追求したシューズ〈スカイハンド®スペシャル〉。つま先からかかとまで衝撃吸収性に富む超軽量スポンジE.V.A.を内蔵したカップソールが、素晴しい軽さ、ソフトな着地感、ストップ性を獲得しました。アクロバチックなスカイプレイを繰り広げながら、ヒッチコックの「鳥」のような圧倒的迫力でゴールを襲うハンドボーラーに捧げます。

株式会社 アシックス

(財)日本ハンドボール協会編
『ハンドボール』
第二五四号
昭和四十年六[illegible] 第三種郵便物認可
昭和六十一年七月二十五日 印刷
昭和六十一年八月 一 日 発行
東京都渋[illegible]南一—一—一
電話 代表[illegible]二三六一
振替 東京 六—五八三四八番
編集兼発行人 大野金一
定価三百五拾円
(年間購読料三千三百円)